

令和5年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業  
 地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 広川町 (都道府県：福岡県)

1. 当該地域の情報 (令和6年3月現在)

地域の課題	<p>技能実習生を中心に年々在住外国人が増加している。こうした中、町内に日本語教室がなかったこと等の理由によって、日常生活を送る上で必要な日本語を話せない外国人もいる。加えて、就労している外国人に対する日本語教育は事業者の責務となっているが、そういった意識を持つ事業者は少ないのが現状である。加えて、また、日本語が理解できないためにゴミの出し方がわからず近隣住民とのトラブルに発展することもある。さらにこのような状況が続けば、外国人、日本人共にコミュニケーションをとることができず、外国人の生活実態もほとんど把握できていないことにより、外国人の孤立が危惧される。</p> <p>一方で、少子高齢化の影響で、地域産業の担い手が不足しており、外国人なしでは町の産業が成り立たない状況である。外国人の生活しやすい環境を整え、地域の担い手として広川町に住み続けてもらうことは、町の急務の課題である。</p>
在住外国人数 外国人比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・422人 (令和6年3月時点)</li> <li>・2.19%</li> </ul>
在住外国人の状況	<p>【主な国籍と人数】ベトナム199人、カンボジア39人、ネパール38人、インドネシア43人、中国25人、フィリピン30人、ミャンマー23人、韓国9人、タイ5人、英国3人 ※上位10件まで</p> <p>【在留資格】特定技能1号128人、技能実習生2号ロ107人、技能実習生1号ロ65人、永住者40人、技能実習3号ロ26人、技術・人文知識・国際業務18人、家族滞在11人、日本人の配偶者等8人、特別永住者6人、定住者7人 ※上位10件まで</p> <p>【滞在年数・在留期間などの状況】                  農業や製造業に関わる特定技能及び技能実習生が最も多い。永住者などの長期滞在する人も少しずつ増えている傾向にある。</p>
在住外国人の日本語教育の現状	<p>日本語教室は隣市の八女市、久留米市にしかなく、近隣に通える日本語教室はない。多くの事業主や農家は、日本語学習について本人に任せている状態である。</p>

2. 事業の内容

本プログラム取組年数	4年目
事業の目的	<p>町内在住の外国人は増加傾向にあるものの、事業開始前は町内にはまだ日本語教室がなかった。この事業を通し、在住外国人や地域の実態把握を行い、地域の実情にあった日本語教室を検討した。今後、関係機関と連携しながら、持続可能な日本語教室の開設と運営を目指すとともに日本語教室をきっかけに多文化共生のまちづくりを進めるもの。</p>
事業の概要	<p>スタートアッププログラムを卒業した後を意識した持続可能な教室運営の仕組みづくりを行うために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教室の担い手となるサポーターを募集し、養成講座を実施した。</li> <li>・コーディネーターやサポーターが在住外国人とのつながりをつくりながら、良好な関係性を構築し、より本音に近い意見やニーズを聞き出した。</li> <li>・実施した教室の参加者およびコーディネーター、サポーターからの意見を元に振り返りを行い、質の高い経験を蓄積していった。</li> <li>・来年度以降の事業費を検討・確保した。</li> </ul>
事業の対象期間	令和5年5月～令和6年3月
前年度の実績 (2年目以降の団体のみ記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度に行った各事業所、在住外国人、地域住民等への実態調査を分析しながら、町の現状とニーズに合った地域日本語教室の試行を3回実施。</li> <li>・ボランティア候補者を対象としたやさしい日本語講座を2回実施。</li> <li>・町内事業者アンケートの集計結果及び他情報提供等を行った。さらに事業者ヒアリングを行いながら継続的な関係性を構築した。</li> <li>・サポーターを募集・養成し、地域日本語教室の試行を7回行った。</li> </ul>



地域の機関・団体との連携体制				
	組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
	生涯学習課	事務局	課長	萩尾 勝昭
	生涯学習課	事務局	課長補佐	那須 大輔
	生涯学習課	事務局	係長	丸山 和久
生涯学習課	事務局	主任主事	早田 隆人	

#### 4. 具体的な取組内容

##### (1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和5年 4月			
令和5年 5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業推進会議① (コーディネーターのみ)</li> <li>・日本語教室①</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間スケジュール、事業企画 (サポーター養成講座・5月日本語教室) 内容検討、広報活動</li> <li>・サポーター募集チラシ作成</li> <li>・日本語教室運営</li> </ul>	
令和5年 6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業推進会議② (コーディネーターのみ)</li> <li>・日本語教室②</li> <li>・サポーター養成講座 (2回)</li> <li>・サポーター登録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポーター募集・養成講座企画運営</li> <li>・広報活動</li> <li>・日本語教室運営</li> <li>・教材作成</li> <li>・今年度の教室運営について協議</li> </ul>	
令和5年 7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業推進会議③ (コーディネーターのみ)</li> <li>・外国人親子のための日本語教室①②</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動</li> <li>・夏休み期間における外国人親子からの要望に応える日本語教室</li> <li>・5月6月日本語教室振り返りと今後の日本語教室について協議</li> <li>※災害発生のため、定例の教室は行わず</li> </ul>	
令和5年 8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業推進会議④ (コーディネーターのみ)</li> <li>・外国人親子のための日本語教室③④⑤</li> <li>・日本語教室③</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み期間における外国人親子からの要望に応える日本語教室</li> <li>・広報活動</li> <li>・運営体制の協議</li> <li>・日本語教室内容協議</li> </ul>	
令和5年 9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業推進会議⑤ (アドバイザー、コーディネーター)</li> <li>・防災訓練</li> <li>・料理教室</li> <li>・日本語教室④</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練参加</li> <li>・広報活動</li> <li>・料理教室実施</li> <li>・運営体制の協議</li> <li>・日本語教室内容協議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★事業推進会議 (オンライン)</li> <li>現状報告、令和5年度の事業予定、今後の運営体制について検討</li> </ul>
令和5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教室視察 (可児市)</li> <li>・運動教室①</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教室視察</li> <li>・運動日本語教室企画・運営</li> </ul>	

10月	・事業推進会議⑥⑦（コーディネーター）	・来年度に向けての協議 ・広報活動 ・サポーター管理	
令和5年 11月	・運動教室② ・事業推進会議⑧（コーディネーター） ・日本語教室⑧ ・情報収集（セミナー参加、外国人支援者訪問）	・情報収集 ・運動日本語教室企画・運営 ・来年度に向けての協議 ・これまでの日本語教室振り返りと今後の日本語教室検討 ・広報活動	
令和5年 12月	・人権フェスタブース出展 ・事業推進会議⑨⑩（コーディネーター） ・実施団体情報交換会	・人権ブースでやさしい日本語啓発、サポーター募集、運営側人材発掘 ・コーディネーター情報交換会 ・これまでの活動振り返りと来年度に向けた運営体制協議、教室内容協議 ・広報活動	
令和6年 1月	・事業推進会議⑪（コーディネーターのみ） ・文化庁視察、ヒアリング ・日本語教室⑨	・日本語教室企画・運営 ・これまでの日本語教室振り返りと今後の日本語教室検討 ・広報活動	
令和6年 2月	・日本語教室⑩ ・事業推進会議⑫（アドバイザー、コーディネーター） ・民生委員会やさしい日本語講座	・日本語教室企画・運営 ・今年度の活動振り返りと来年度以降の活動について協議 ・広報活動 ・やさしい日本語講座企画・運営	★4年間の活動報告、今後の活動方針について検討、次年度の取り組み検討
令和6年 3月			

## (2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	にほんごクラブひろとも						
外国人参加者について	[属性] 技能実習生や日本人の配偶者等が主な対象 [国籍] ベトナム、ネパール、インドネシア、カンボジア等						
参加者数 (内 外国人人数)	受講者 23名 支援者 82名 (コーディネーター 27名、サポーター 55名)						
開催時間数	総時間 19.5 時間	内訳 1.5 時間 × 7 回 + スポット3時間 / 3回					
目標	・語学だけではなく、その人がその人らしく生活できる場づくり ・日本語を学習できる環境や文化の違いを学び合い交流できる場づくりを進め、コミュニケーションの支援を行う						
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2023年 5月25日(木) 19:00~20:30	1 ・ 5	広川町役場	2	オリエンテーション、自分の国について	・主催者あいさつ ・教室参加のルール ・自己紹介のための日本語 ・自分の国を日本語で紹介	コーディネーター3名 サポーター3名
2	2023年 6月29日(木) 19:00~20:30	1 ・ 5	広川町役場	0	やさしい日本語、町内外国人	※外国人参加者が不在であったため、サポーターのふりかえりや外国人の背景学習を実施	コーディネーター3名

					の現状について		サポーター9名
3	2023年 8月24日(木) 19:00~20:30	1 . 5	広川町役 場	1	日本のまつりに ついて	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本のまつりを紹介</li> <li>自国のまつりの紹介</li> <li>広川町のまつりを紹介</li> <li>まつりで使う日本語</li> </ul>	コーディネータ ー3名 サポーター8名
4	2023年 9月24日(日) 9:30~13:00	3 . 5	社会福祉 協議会調 理室	1 0	料理教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習生が主体となりカンボジア、インドネシア、ベトナムの料理を作る</li> <li>料理に使う日本語</li> <li>調味料、調理器具などの名前について</li> </ul>	コーディネータ ー3名 サポーター4名
5	2023年 9月28日(木) 19:00~20:30	1 . 5	広川町役 場	3	スポーツについ て	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本のスポーツ紹介</li> <li>自国のスポーツ紹介</li> <li>スポーツで使う日本語</li> </ul>	コーディネータ ー4名 サポーター2名
6	2023年 10月8日(木) 19:00~20:30	2 . 5	中広川小 学校体育 館	3	スポーツを通し て習得した日本 語を使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>バレーボール、バドミントンを行い、協議に必要な日本語を使う</li> <li>体に関する日本語を学ぶ</li> </ul>	コーディネータ ー3名 サポーター4名
7	2023年 11月19日 (日) 13:00~ 16:00	3 . 0	中広川小 学校体育 館	3	スポーツを通し て習得した日本 語を使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれ国のスポーツ、バドミントンを行い、協議に必要な日本語を使う</li> <li>余暇を過ごすための日本語を学ぶ</li> </ul>	コーディネータ ー2名 サポーター4名
8	2023年 11月23日 (木) 19:00~ 20:30	1 . 5	広川町役 場	0	やさしい日本 語、町内外国人 の現状につい て、方言につい て考える	※祝日でもあり、外国人参加者が不在であったため、サポーターのふりかえりや外国人の背景学習の実施	コーディネータ ー2名 サポーター3名
9	2024年 1月25日(木) 19:00~20:30	1 . 5	広川町役 場	1	お正月の文化、 日本語	<ul style="list-style-type: none"> <li>正月に関する日本語を学ぶ</li> <li>正月に関する文化を学ぶ</li> <li>互いの国の正月について</li> </ul>	コーディネータ ー2名 サポーター13名
10	2024年 2月22日(木) 19:00~20:30	1 . 5	広川町役 場	0	やさしい日本 語、町内外国人 の現状につい て	※雨天、外国人参加者が不在であったため、サポーターのふりかえりや外国人の背景学習の実施	コーディネータ ー2名 サポーター5名

【主な活動】



4. 2023/9/24  
料理日本語教室



6. 2023/10/8  
運動日本語教室



9. 2024/1/25  
日本語教室

<p>教室の立ち上げに係る問題とその対応策</p>	<p>外国人の参加者数が安定していない。広川町の在住外国人の中でも割合が多い技能実習生への周知が特に重要であるが、そのためには事業者からの理解が不可欠である。引き続き事業者へ訪問し、日本語教室の様子を伝えることで周知を図っていききたい。また現在の平日夜の時間帯に対して参加が難しいという声もあるので、土日の開催や日中の開催も検討していく。 運営者の人材が不足している。地域、企業を訪問する中で、持続可能な教室運営をできる人材を発掘・育成していく。</p>
---------------------------	---

### (3) その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
サポーター養成講座	令和5年6月(全2回)	日本語教室をサポートするボランティアとして望まれる知識、技能を習得するために開催。 【内容】(全2回、1回3時間) 第1回 地域の外国人の現状と課題、地域日本語教室の説明 10人参加 第2回 やさしい日本語についての講座 11人参加 受講者の内13人にサポーター登録いただく。サポーターとしての活動のための研修の役割だけではなく、地域住民が在住外国人への理解を深めることにも成果があったと考える。
在住外国人親子のための日本語教室	令和5年7月27日、30日 8月2日、6日、20日(全5回)	夏休み期間に、学校に通う子どもの日本語習得支援と、親に対する学校生活で使う日本語習得を目的とし、学校で使う日本語や、日本の学校の習慣、授業で使う日本語、教科書で出てくる日本語についてコーディネーター2名が対応し、学習を行う。小学生の子を持つ在住外国人親子1組(2名)が参加する。 (全5回 1回1.5時間)
地域で行われる防災訓練に参加	令和5年9月17日	ベトナム人実習生4名が居住地で行われる防災訓練に参加。防災に係る日本語習得支援と避難所確認、避難に必要な日本語を学ぶ。
広報紙を用いた周知活動	令和5年11月	広川町の在住外国人の現状、地域での多文化交流の推進を目的として、広報紙で「多文化共生」、日本語教室、地域の交流イベントについての特集を行う。 【掲載内容】 ・多文化共生とは・広川町の在住外国人の現状 ・広川町で働く外国人の声(インタビュー) ・日本語教室の活動・地域での交流イベント 全5ページ
人権フェスタ	令和5年12月2日 13:00~16:00(3時間)	日本語教室の認知を高めるため、また町民のやさしい日本語の啓発、サポーターの募集、運営に携わることのできる人材発掘、外国人への理解を高めるため、広川町人権フェスタにブースを出展する。アフリカ人講師を招き、アフリカのコーヒーを無料提供する。300人以上の町民に来ていただいた。
民生委員会やさしい日本語講座	令和6年2月21日 13:30~15:00(1.5時間)	地域の役員である、民生委員向けにやさしい日本語講座を行う。外国人への理解関心を高めることができた。

#### 【主な活動】



広報紙を用いた周知活動



サポーター養成講座



人権フェスタ

## 5. 今年度事業全体について

進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度は日本語教室を10回実施、うち、3回は運動や料理を取り入れたイベント型教室を行った。やさしい日本語講座やブース出展による啓発活動を2回実施した。地域や学校に外国人が参加するために必要な取り組みを行った。</li> <li>令和5年度は、日本語教室をサポートしてくれるボランティア（以下、サポーター）を5月に募集。6月に教室の意義や多文化共生、在住外国人とのコミュニケーションについて学ぶ「サポーター養成講座」を実施した。受講した14名のうち中学生～大学生の13名にサポーターとして登録してもらった。</li> <li>引き続き5月から月に1回、第4木曜日夜（19時～20時半）に設定し、定期的な教室を開始した。外国人参加者数は平均1名程度、サポーターは7名程で推移している。</li> </ul>
事業推進にあたり問題点と対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人参加者数が少ない。現在平日夜に開催時間を設定していることから、仕事が終わらずに参加できない、夜は外出を控えているため参加が難しいなどの声がある。また交通手段が自転車の技能実習生が多く、雨や寒さなどで参加を見送るケースも考えられる。</li> <li>対応策としてスポットイベント教室を開催することで、平日夜の参加が難しい外国人が参加しやすくなった。また日本語教室の開催前、開催後にも町内事業者を訪問し、日本語教室の様子や参加者の様子を伝えることで、事業者が安心できるようなフォローを行った。</li> <li>サポーターは若年者が中心になり、現在教室運営を担える人材を取り込めなかった。地域、企業を訪問し、引き続き人材発掘、育成を行う。</li> <li>教室の目的が若年者への人材育成なのか、外国人への日本語教育なのかあいまいになってしまうことがあった。事業推進会議などを通し、教室の目的を明確にもって運営することに務めた。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月より地域日本語教室の定期開催を開始することができた。</li> <li>定期開催（第4木曜日、19時～）以外の曜日と時間にも3回スポット開催の教室を実施することができた。</li> <li>サポーター13名に登録してもらうことができた。</li> <li>サポーター向けの養成講座を開催することができ、やさしい日本語講座の啓発活動も行った。</li> <li>日本語教室を中心に、地域交流を生み出すことができた。</li> </ul>
地域の関係者との連携による効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は町内事業者へのヒアリングだけではなく、地域役員へ訪問して外国人との地域交流を促す取り組みを行った。訪問の効果として、情報提供を行った事業所から外国人参加者が来てくれることもあり、地域行事への参画を行うことができた。</li> <li>地域の関係機関への訪問を行うことで、日本語教室の周知を行い、関心を持ってもらうことができた。</li> </ul>
コーディネーターの主な活動	<ol style="list-style-type: none"> <li>日本語教室の運営・準備【約101時間】</li> <li>日本語教室の周知、情報発信、ヒアリング、訪問等【約48時間】</li> <li>日本語教室の教材作成【約3.5時間】</li> <li>人材育成【約43時間】</li> <li>体制整備【約34時間】</li> </ol>
アドバイザーの主な助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの活動で広川町の資本、資源となり得る人材がいる。それらの人材を広川町らしく組み立てていく。進んでいるところにいる。</li> <li>これまでの教室運営の蓄積を活かしていく。多文化共生推進プランができ、プロジェクトチームも立ち上げた。どんな形でも多文化共生のまちづくりの課題を解消していける。</li> <li>行政が主体となるといろいろな制約がある。コアになる人を探し巻き込んでいく。最終的には町民に任せていく。</li> <li>日本人にも参加できる場所を作る。外国人とともに学べる場所を作る。自分たちのやりたいことをできる空間を作る。</li> </ul>

<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教室を運営していける人材の発掘育成が急務である。地域・企業に出向き人材確保に努めていく。</li> <li>・教室の目的、対象をよりはっきりとさせて教室の内容を決める。生活者として外国人のための教室と、日本人学生のための教室を分けて考える。</li> <li>・外国人参加者の多様なニーズへ対応する為の体制をどう構築するのか。プロジェクトチームで考えていく。</li> <li>・外国人の環境と、ニーズをどのように把握するか。企業、外国人を訪れ、話をすることのできる体制作りと維持を行う。</li> <li>・外国人の日本語教育と並行し、地域参画を促す取り組みを行っていく。日本人、外国人双方の地域への理解度を高めていく。</li> </ul>
<p>今後の予定</p>	<p><b>(1)今後の日本語教育事業の展開について</b></p> <p><b>①日本語教室の展開</b> 行政、地域、企業と協力し、スポット的な日本語教室を行う。(3ヶ月に1回程度)内容についても企業・地域・外国人から聞き取りを行い、効果的な教室を検討する。</p> <p><b>②日本語教室の実施主体と行政の関与について</b> 日本語教室の実施主体は当面、広川町役場生涯学習課が担う。庁内で立ち上げた多文化共生プロジェクトチームと協力して全庁的な取り組みを行う。また、地域・企業に出向き日本語教室の内容に活かすニーズ調査と、今後の日本語教室を担える人材の発掘・育成を行う。</p> <p><b>③財源の確保について</b> 令和6年度当初予算にて確保する。</p> <p><b>(2)今後の予定(取組等)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人が務める企業10社以上の訪問と、公民館長と協働して、地域における外国人の実態把握を行う。</li> <li>・地域、学校、企業の協力を得てスポット日本語教室を開催する。(防災訓練、病院に行こう、図書館に行こう、運動教室、料理教室等)</li> <li>・やさしい日本語講座、学生向けに在住外国人との体験教室を試行。</li> <li>・広川まつり、人権フェスタでの出展。</li> </ul>

本件担当： 広川町役場 生涯学習課 人権同和政策推進室